

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオール上大岡教室			
○保護者評価実施期間	令和7年1月17日		～	令和7年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	令和7年2月6日		～	令和7年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制整備(2) 職員の配置数の適正さ ・児童:職員の割合が2:1になるよう、手厚く配置している。	・プログラムの円滑な進捗と、個別SST、集団SSTの質的向上を目的として、事業所全体のスケジュールと役割分担、提供するプログラム内容を明確にした計画を、職員らで共有している。 ・事前、事後のミーティングを毎日実施することで、それぞれの職員が共通認識を持って児童の支援にあたれるよう工夫している。	・手厚いOJTと研修によって、職員の支援の質を向上させることで、やりがいに繋げ、離職リスクの軽減に努めていきたい。 ・ワークライフバランスも重視し、休日、休憩をしっかりとれる職場環境を整備することで、職員が心身ともに健康的に児童の支援にあたれるようにしていきたい。
2	環境・体制整備(3) 生活環境を構造化する工夫 ・物理的な境界線をつくり、場所と活動を1:1で関連付ける支援や、全児童に対してスケジュール支援を提供している。 ・構造化の工夫は児童の特性に合わせて個別化されるように設定されている。	・毎日の事後ミーティングにおいては、全体として児童の気になる行動について共有する時間を設けている。報告があった児童については、児童発達支援管理責任者が行動観察し、認知発達レベルに合わせた構造化の工夫や、心理教育的な支援について助言し、迅速に必要な環境調整や支援が実行されるような取組をしている。	・資質向上のための研修として、直接支援員が専門性を学ぶ機会を設けていく。
3	適切な支援の提供(5) こどもの特性理解と専門性のある支援 ・各職員らが、常に学び続けていく姿勢で業務にあたれている。 ・フォーマル、インフォーマルなアセスメントを組み合わせる児童の特性を把握し、必要な支援をチームで検討し、実行できている。	・キャリアパスにおいては、クオール上大岡教室で提供する専門性(例: TEACCH,ABA,SST,ESDM等)についての一覧表が整備されており、自己研鑽の方法が職員に周知されている。 ・各部署(個別SST、集団SST、学習支援)を担当制とすることで、各職員が自分に求められる専門性が何であるのかを明確化し、学びに繋がるような工夫をしている。	・キャリアパスにおける専門性は、知識獲得と実践の二部構成になっているが、強制するものではなく、進め方は職員の意思に委ねるかたちとなっている。積極的に活用されるようなくみも検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	適切な支援の提供(11) 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会 ・定型発達児との交流機会が殆どない。地域交流を目的としたロールプレイ等は実施しているが、実際に地域に出向く段階までは至っておらず、事業所内で完結してしまっている。	・年間スケジュールがなく、時期を見定めて計画的に地域交流を行っていく視点が持てていなかった。 ・定型発達時との交流機会をつくるための情報収集も不足していた。	・年間スケジュールを立て、地域交流を行う視点を持って、計画的にプログラムを進行していきたい。
2	保護者への説明等(18) 父母の会、保護者会の開催 ・児童への支援は手厚く実施できているが、保護者への支援や、きょうだい児の支援までは行き届いていない。 ・ペアレントトレーニングも実施しているが、育児に悩む保護者からの相談を受けて個別に実施している状況で、情報伝達が不足している。	・保護者支援、きょうだい児支援、ペアレントトレーニングの必要性については認識していたが、日々通所する児童への支援プログラム立案に追われる状況で実施が難しかった。	・年間スケジュールを立て、保護者会(きょうだい児支援を含む)の実施を計画していきたい。 ・ペアレントトレーニングについては実施済みであるため、情報伝達を徹底することや、気軽に相談できる関係性を維持することで、支援の手が行き届いていくように工夫する。
3	非常時の対応(24) 避難訓練の実施 ・最低限必要とされる避難訓練(年2回)は実施したが、曜日、時間帯、欠席等も含めて、全児童が参加できるような配慮が不足していた。	・全児童が参加できるように実施する視点が不足していた。	・避難訓練を実施するときは、「避難訓練週間」のような形で実施し、全児童が漏れなく参加できるような工夫をする。 ・事業所内の個別スケジュールを活かし、既に参加した児童は別プログラムを進行できるように配慮する。